

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872001201
法人名	有限会社弥久
事業所名	グループホーム 幸寿苑
所在地	茨城県つくば市磯部15 (電話)029-867-7651

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年6月3日

## 【情報提供票より】(平成21年2月18日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年6月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤8人, 非常勤 12人, 常勤換算 13.1人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	61,500 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1500円

## (4)利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	7 名	要介護4	4 名			
要介護5	3 名	要支援2	名			
年齢	平均	80.2 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	坂入医院 ホスピタル坂東 筑波記念病院 石浜歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気の中でその人らしい時間が過ごせるようケアを提供していくという考えで設立されたホームは、筑波山の麓、近くには水田、桜川と四季折々の自然が楽しめる。また当ホームは、医師との連携が強固となっており、24時間体制で利用者の健康を守っている。管理者はもとより職員のケアの質の向上に対する取り組みも特に強く、多くの研修に参加された報告書、伝達講習会の記録が保管され実践に生かすよう工夫されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	災害対策について、夜間を想定とした避難訓練を行い職員の危機管理意識の構築を図る取り組みに対し、消防署との避難訓練の定期的な実施とともに夜間職員が少ない状況設定での訓練が行われている。職員もその状況設定に対し訓練を重ね、熟知した状態で夜勤業務が行えるよう続けていきたいと話していた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者を中心とし全体のミーティングなどを利用し、外部評価の理解とともに自己評価項目の読み聞かせなどを行い、職員の意見を傾聴し外部評価に取り組みされていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	2カ月に1度定期的に推進会議が行われ、議事録として保管されている。また推進会議では、積極的に地域や行政など施設外からの意見の収集に力を入れ、ホームの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の意見は、直接聴取する場面が多く、その意見は早めに解決し改善する努力と工夫が行われている。苦情処理用のファイルには、家族の細かな意見を記入し、その解決方法や改善の実施について、記録化され保存されている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	管理者が地域に対してのホームの啓発をこまめに行ったり、地域のイベントへの参加、またホームを地域へ開放し、イベントを開催するなど多彩に工夫し、地域との連携を強固にする工夫が行われていた。今では、地域住民がホームに立ち寄り、野菜を持ってきたりする、ご近所付き合いのような場面も見ることができた。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心感、自主決定、家庭的な環境の提供と、地域に開かれた施設を理念に、利用者の希望を中心にその人らしい生活が送れるようケアを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者を中心に職員に周知され、日常のケアや利用者とのコミュニケーションなど、直接的なかかわりをもって取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携に、管理者を中心として時間をかけ地域に溶け込み、地域に開かれた施設となっている。地域の住民が近所付き合いのように、ホームに訪れ談笑している風景が見られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に対し、評価の意義や活用について説明され、職員もしっかりと理解された上で評価への参加取り組みが行われた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、定期的開催されている。また地域の参加者や行政からの意見など会議を利用し、ホームの質の向上に対する意見の聴取の場としても積極的に活用されている。		

茨城県 グループホーム幸寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	つくば地域密着型サービス連絡会に参加し、ホーム間での連携を図るほか、行政との連携も連絡会を通して積極的に行われている。管理者も行政に足を運ぶなどの取り組みも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告として、毎月利用者の写真を交えた手紙を家族に送付するなど、家族との連絡を絶やさないようにしている。また体調不良など緊急時には、電話連絡など手段を変更し、家族に報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、近況報告時の手紙の返信なども利用し、家族の意見が定期的に聴取できるよう工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は特に行っていない、馴染みの関係を維持できるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修のほか、外部研修も職員の希望で参加できるようになっている。また研修は、法人の補助もあり職員の負担を少なくし、学習できるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと管理者同士の交流があり、他の事業所の見学などを通し、積極的に交流を深めている。また少数ではあるが、利用者同士の交流も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設するデイサービスを利用し、施設の雰囲気に馴染んでもらい入所に移行し、混乱を防ぐよう工夫されている。またデイを利用していない利用者については、必ず見学を実施し入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は女性が多く、料理や日常生活での昔の知恵など、利用者個人の生活史を踏まえ介護者と利用者の支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や外出など利用者の希望により提供されているほか、利用者の意見など、その時の天気や利用者の気分などを考慮し、思いや意向が積極的に取り入れられるよう工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスで、各職員の情報の共有を図り、ケアプランに生かされるよう、その時点での問題の解決に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題の解決と、家族の意見やケアに対する思いや意向など、利用者の希望を多く聞き入れ見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の場所や広さを生かし、地域住民を交えたイベントが行われている。またボランティアの参加も多く、利用者はもとより、地域にも開かれた事業所となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のもともとのかかりつけ医に、受診することが可能であり家族の送迎が困難な場合、事業所での送迎も可能となっている。時間等により有料の場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に関係なく、利用者や家族の希望に応じて、終末期のケアを提供できるようになっている。書式などの準備が行われ今後家族の理解や同意、話し合いを持つ予定となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に対するマニュアルを作成し、職員間で理解を深めている。書式などに関しては、書庫に保管するほか、鍵のかかる部屋での保管となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、その人らしい生活を家庭的に送れるように、個人のアセスメント、生活史を理解し、利用者のペースでケアの提供を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者とともに作り利用者と同じ空間と時間で、職員も楽しく会話を交えながら、明るい雰囲気の中か食事の援助がおこなわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14時から20時までの間で、利用者の希望により入浴が可能となっている。また拒否的な利用者には、入浴時間が空かないように、適宜職員の言葉かけなどで入浴の支援が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活史を職員間で共有し、その人らしい生活を送れるよう楽しみ事や、利用者個々の役割の支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩はもとより、利用者の希望により、自然に囲まれた環境の中で、四季に合ったイベントを行い、利用者の外出の支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行わず解放されたホームとなっている他、利用者の居室から自由に外へのアクセスが可能となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	去年の外部評価の取り組んでいただきたい項目から、災害や緊急時に備えた訓練が定期的に行われ、職員も問題意識を持ちながら積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者個人の情報を詳細に記録し、見やすく整理されている。利用者の健康情報が分かりやすく工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、窓からの光で明るく温かな空間になっている。利用者は自然に共有空間に集まり、ほかの利用者と談笑する場面が多くみられた。	○	施設周辺の自然環境が豊かで、窓からの風景が四季を感じさせてくれる環境となっているが、共有空間にもさらに、四季を感じることでできる草花や、物品の設置に取り組んでいただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者馴染みの物品を多く利用し、その人らしい空間が提供され、空調などの整備も各居室単位で調節が可能となっている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票(南ユニット)

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「安心感」のある生活「自主決定」の尊重「家庭的な環境」の提供「地域に開かれた施設」。ご利用者様主体であり、地域との係わりを中心とした理念になっています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関先に基本理念を置き、管理者・スタッフ共、常に意識できる様にしています。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域交流会や、2ヶ月に1回開催している運営推進会議の中で、基本理念をふまえ、お話しさせていただき、ご理解ご協力を求めています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩中など、ご近所の方へ積極的に声を掛けています。ホームの行事などがあるときには、ご近所に声をかけて、見に来ていただいています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	年に1度地域交流会を開催しています。シルバー会の方や、地域の方々をお招きし交流の場を設けています。また、地域のお祭り等に参加させていただいています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流会や、運営推進会議等で、区長様や民生委員、地元のシルバー会の方々へ地域の美化活動などに参加kさせていただけるよう、お声をかけています。	○	運営推進会議などで、地域に役立つことはないか、お声をかけさせていただいてるが、取り組みまでにはいたっていない。今後地域に貢献できることを探していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的、実施する意義等、理解しています。全員で自己評価を行い、改善点が場合など、話し合いの場を作り、改善していける様努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催のお知らせの手紙の中に、ご意見・ご要望欄を作り、参加出来ない方には記入後返信していただいています。また、会議で出た意見に対し、職員会議などで話し合いを行い、サービス向上に活かせるよう努力しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回行われている、つくば市地域密着型サービス連絡会に参加しています。その中で、市の職員の方も参加してくださり、意見交換や、研修会を開催してサービスの向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加したり、地域密着型サービス連絡会で地域包括センターから講師を招き、学ぶ機会を作っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加したり、苑内研修等にて、勉強会を実施しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様、ご家族様が理解・納得できる様十分時間を取り説明しています。また、不安や疑問点などがないか、こちらからお聞きするようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護サービス相談員を受け入れ、利用者様の意見や、不平・不満を話せる場を設け運営に反映させています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告として毎月ご家族様へ、ホームでの暮らしぶりなどを書いて、お手紙を送っています。また、健康状態等に変化があった場合には、すぐに、連絡をとっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先に目安箱を設置しています。また、運営推進会議への参加を呼びかけていますが、参加出来ないご家族様には返信用の中に「ご意見・ご要望」が書ける欄を作り、返信していただいています。苦情が出た場合には会議にとりあげ、改善に努めています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが、意見や提案をしやすい環境をつくっています。意見・提案があったときには、話し合いの場を設け、サービスの向上につながる努力をしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホーム行事や受診、外出に合わせ、勤務体制を整えています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出た時には、利用者様の状態を見て説明しています。また、新人職員の紹介は必ず行い、利用者様が混乱しないよう努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ進んで参加しています。また、新人スタッフ教育係を配置しています。 認知症高齢者対応マニュアルを作成し、認知症の方のケアについて学べるようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回行われている、地域密着型サービス連絡会に出席し、他事業所との情報交換、交流を図っています。勉強会には、スタッフにも参加してもらい、サービスの質の向上に取り組んでいます。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みなど、相談しやすい環境を作っています。また、新年会・忘年会など、親睦会を行い、スタッフ同士の交流、ストレス発散の機会をつくっています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、スタッフ個人個人が向上心を持ち、研修の確保や、資格取得等の支援をしています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問させていただき、ご本人様と話せる時間を十分にとり、ご本人様の不安等をとりぞけるよう、努力しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問させていただき、ご家族様の希望・不安や困っている事など、お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受けとめています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等お話を聞き、何を必要としているのか見極め、他サービスの提案もさせていただいています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用となる前に、ご本人様・ご家族様にホームへ見学に来ていただくようお願いしています。ホーム内の雰囲気をご自分の目で見ていただく事によって、安心して利用できる工夫をしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にしています。日々の生活の中でも、共に笑い、ご利用者様の話に耳を傾け共に共感し、支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の近況報告や、健康状態の変化の報告など、まめに連絡をとっています。また、ホームへの行事参加への呼びかけをし、共に楽しみ、支えていく場を作っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム行事等の参加を呼びかけたり、面会に来られた時など、必要な場合スタッフが間に入るなどし、より良い関係を築いていけるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方の面会など、気軽に足を運んでいただけるよう、ホームの温かい雰囲気づくりに努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士で、自然に支えあえるよう時にはスタッフが間に入り、上手く仲をつなぐようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、ホームの行事に参加していただけるよう、お声を掛けさせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、ご利用者様の声に耳を傾け、ご本人の希望の生活が出来るよう努力しています。スタッフ全員が、ご利用者様の立場にたったケアを心掛けています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞き、アセスメントシートを作成し、スタッフ全員が把握できる様ファイルしてあります。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人様の生活状況等をケース記録に細かく記録し、把握するよう努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の希望を聞き、カンファレンスを行い、ケアマネジャー、計画作成担当、看護婦、各スタッフと話し合い、計画の作成をしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに対し、1ヶ月間の評価をしています。変化が生じた場合や、見直しが必要な場合には、関係者と話し合いをし、新しいプランを作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の言葉など、細かく詳しくケースに記録するようにしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診など、ご家族様が付き添えない場合には、スタッフが代わりに同行したりと、柔軟に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防・警察の方々には、どのようなホームであるか、理解していただき、ホームの周辺の見回りや、避難訓練など、協力をしていただいています。ボランティアの受け入れや、民生委員の方と協力し、支援していています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も、担当のケアマネジャーとの連携をとり、ご本人様の必要とするサービスの支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターに足を運び、相談・情報の交換・情報の共有に努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけ医に受診しています。また、ご家族様が受診に同行出来ない場合には、スタッフの同行にて受診を行っています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当事業所の代表が、認知症の専門医ですので、スタッフも安心して相談しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、訪問看護ステーションに来ていただいています。状態変化や、対応など、気軽に相談でき、連携がとれています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要な情報を提供し、病院関係者と連携をとっています。スタッフの顔を見る事で安心される方もいらっしゃるので、ご家族様に了解を得て、お見舞いに行かさせていただいています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合の対応に係る指針をお渡しし、説明しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者様の状態の変化に伴い、ご家族には事業所の出来る事、出来ないこととお話し、ドクターや看護婦等と話し合い支援しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最小限のダメージですむように、ご家族様や、関係者の方々と連携し情報交換、話し合いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルを作成し、プライバシーの確保に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人様が自己決定しやすい声掛け、希望えお言いやすい環境を心掛けています。その方に合った声掛けなどの工夫をしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内でのおおよその1日の流れはありますが、ご利用者様中心の生活ですので、その方のペースにあわせ支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に整容していただき、着るものなど、ご本人に選んでいただいています。2ヶ月に1回、訪問美容がきてくれます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様が出来る事、また、得意とする事をお手伝いしていただいています。一緒に作ったものを、スタッフも同じテーブルに座り、会話を楽しみながら食べています。スタッフは、食べこぼしを考え、サポート出来る位置に座るようにしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は出していませんが、飲み物を数種類用意したり、おやつなどは、好きなものを作ったり、一緒に買い物に行き選んでいただいています。タバコの管理はこちらでしていますが、好きな時間に楽しめるようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライドを傷付けないよう、声掛け・誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ、入浴支援を行っています。入浴前に声掛けし、希望の時間等聞くなどし、できる限りご本人様の希望に沿うよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様個人個人の生活リズムを把握し安心して休息できる様支援しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事・洗濯・掃除・園芸など、その方にあった、家庭的な活動を支援しています。ご本人様の得意とする事や、趣味など、活躍出来る場を見つけ、日々過ごせるようにしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針として、ご利用者様自身での金銭管理は行っていません。希望の品物があつた場合には、ご家族様の了解のもと、ホームで立て替え、月まとめて請求しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出掛けたり、天気の良い日には散歩に出掛けるなど支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行つてみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会時や手紙などで、ご家族様と連絡を取り合い、お正月やお盆の里帰りなどの機会を作つています。また、ご利用者様の希望を聞き、外出行事計画を作つています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や、お手紙など自由にしていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けていないので、いつでも来訪していただけるよう、お声をかけています。面会時には、話しやすい場所で、ユックリと過ごしていただいています。	○	ご家族様の面会が少なく感じる為、ホーム行事を平日でなく、土・日にするなど、日程の調整を行っていった。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ参加したり、苑内研修などで勉強会を開催しています。また、見やすい場所に、「身体拘束のない介護のための指針」を張り出しスタッフが、常に意識できるようにしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ同士で常に状態把握に努め、徘徊されている方がいる時などには、注意して見守るようにし、ご本人様がストレスを感じないよう取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時には必ずノックをし、プライバシーの確保に努めています。また、ご利用者様の状態を把握し、スタッフ間で連携をとり、安全確保につとめています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状態に合わせ、ご本人様で管理できる物、できない物を見極めて対応しています。危険な物を使用する際には、スタッフが見守りながら使用していただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや、事故報告書からその後の会議にて話し合い、対応方法など検討し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、各ユニットに置いてあります。また、苑内研修にて、看護師より応急手当の仕方など、勉強会を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害対策として避難訓練を実施しています。消防署の方にもきていただき、指導を受けています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様には、今後起こりえるリスクについて説明し、ご理解をいただいています。問題が生じた場合には、ご家族様と相談・協力し、その方らしい生活ができるよう努めています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや、日々のコミュニケーションを多くとることで、素早く異変に気付けるようにしています。異変に気付いた時には、Dr.・看護婦にすぐに連絡し、指示を受け対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が飲まれている薬のファイルを作り、スタッフがいつでも確認できる様、各ユニットに置いてあります。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動をしたり、食物繊維の多い食べ物を取れるよう配慮しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、援助を行っています。磨き残しがないかチェックし、状態に応じて支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックシートの中で、一人一人の摂取状況の把握をしています。水分摂取の確保では、個人個人の必要水分量を出し、チェックしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対応マニュアルや、勉強会、研修の機会の確保等行っています。調理前や、食事前、外出後などには、うがい・手洗いを徹底して実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板等、調理器具は使用后、食器消毒保管庫にて消毒・保管しています。食材には、常に新鮮な物を使用しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節の花を植えたりし、家庭的な雰囲気づくりに努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな声や、物音を立てないよう心掛け、光の調節には、レースのカーテンを使用するなど、配慮しています。フロアやキッチンなどには、家庭で使っている物を使用しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺にソファ・テーブルを置いたり、畳にはコタツを設置し、個々にくつろげる空間づくりをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご自宅で使用されていた家具・食器類等を持ってきていただくようお話しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気など設備を整えています。午前・午後と室内の換気を行い、温度調整には十分注意しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等、手すりを設置し安全に歩行できるようになっています。また、ご利用様が使用するもの(洗濯竿)など、身長の高さに合わせるなどの工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋には、ご利用様の目の高さにネームプレートを、トイレやお風呂場などのプレートは、大きく見やすい場所に取り付けています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキや、ベランダにプランターを置き、季節の花や、野菜の栽培を行っています。ご利用様が、楽しく生活できる空間づくりをしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービス評価の自己評価票(西ユニット)

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心感」のある生活「自主決定」の尊重「家庭的な環境」の提供「地域に開かれた施設」。ご利用者様主体であり、地域との係わりを中心とした理念になっています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関先に基本理念を置き、管理者・スタッフ共、常に意識できる様にしています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域交流会や、2ヶ月に1回開催している運営推進会議の中で、基本理念をふまえ、お話しさせていただき、ご理解ご協力を求めています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中など、ご近所の方へ積極的に声を掛けています。ホームの行事などがあるときには、ご近所に声をかけて、見に来ていただいています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1度地域交流会を開催しています。シルバー会の方や、地域の方々をお招きし交流の場を設けています。また、地域のお祭り等に参加させていただいています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流会や、運営推進会議等で、区長様や民生委員、地元のシルバー会の方々へ地域の美化活動などに参加kさせていただけるよう、お声をかけています。	○	運営推進会議などで、地域に役立つことはないか、お声をかけさせていただいてるが、取り組みまでにはいたっていない。今後地域に貢献できることを探していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的、実施する意義等、理解しています。全員で自己評価を行い、改善点が場合など、話し合いの場を作り、改善していける様努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催のお知らせの手紙の中に、ご意見・ご要望欄を作り、参加出来ない方には記入後返信していただいています。また、会議で出た意見に対し、職員会議などで話し合いを行い、サービス向上に活かせるよう努力しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回行われている、つくば市地域密着型サービス連絡会に参加しています。その中で、市の職員の方も参加してくださり、意見交換や、研修会を開催してサービスの向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加したり、地域密着型サービス連絡会で地域包括センターから講師を招き、学ぶ機会を作っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加したり、苑内研修等にて、勉強会を実施しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様、ご家族様が理解・納得できる様十分時間を取り説明しています。また、不安や疑問点などがないか、こちらからお聞きするようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護サービス相談員を受け入れ、利用者様の意見や、不平・不満を話せる場を設け運営に反映させています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告として毎月ご家族様へ、ホームでの暮らしぶりなどを書いて、お手紙を送っています。また、健康状態等に変化があった場合には、すぐに、連絡をとっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先に目安箱を設置しています。また、運営推進会議への参加を呼びかけていますが、参加出来ないご家族様には返信用の中に「ご意見・ご要望」が書ける欄を作り、返信していただいています。苦情が出た場合には会議にとりあげ、改善に努めています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが、意見や提案をしやすい環境をつくっています。意見・提案があったときには、話し合いの場を設け、サービスの向上につながる努力をしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホーム行事や受診、外出に合わせ、勤務体制を整えています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出た時には、利用者様の状態を見て説明しています。また、新人職員の紹介は必ず行い、利用者様が混乱しないよう努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ進んで参加しています。また、新人スタッフ教育係を配置しています。 認知症高齢者対応マニュアルを作成し、認知症の方のケアについて学べるようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回行われている、地域密着型サービス連絡会に出席し、他事業所との情報交換、交流を図っています。勉強会には、スタッフにも参加してもらい、サービスの質の向上に取り組んでいます。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みなど、相談しやすい環境を作っています。また、新年会・忘年会など、親睦会を行い、スタッフ同士の交流、ストレス発散の機会をつくっています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者、スタッフ個人個人が向上心を持ち、研修の確保や、資格取得等の支援をしています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問させていただき、ご本人様と話せる時間を十分にとり、ご本人様の不安等をとりぞけるよう、努力しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問させていただき、ご家族様の希望・不安や困っている事など、お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受けとめています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等お話を聞き、何を必要としているのか見極め、他サービスの提案もさせていただいています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用となる前に、ご本人様・ご家族様にホームへ見学に来ていただくようお願いしています。ホーム内の雰囲気をご自分の目で見ていただく事によって、安心して利用できる工夫をしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にしています。日々の生活の中でも、共に笑い、ご利用者様の話に耳を傾け共に共感し、支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の近況報告や、健康状態の変化の報告など、まめに連絡をとっています。また、ホームへの行事参加への呼びかけをし、共に楽しめ、支えていく場を作っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム行事等の参加を呼びかけたり、面会に来られた時など、必要な場合スタッフが間に入るなどし、より良い関係を築いていけるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方の面会など、気軽に足を運んでいただけるよう、ホームの温かい雰囲気づくりに努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士で、自然に支えあえるよう時にはスタッフが間に入り、上手く仲をつなぐようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、ホームの行事に参加していただけるよう、お声を掛けさせていただいてます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、ご利用者様の声に耳を傾け、ご本人の希望の生活が出来るよう努力しています。スタッフ全員が、ご利用者様の立場にたったケアを心掛けています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞き、アセスメントシートを作成し、スタッフ全員が把握できる様ファイルしてあります。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人様の生活状況等をケース記録に細かく記録し、把握するよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の希望を聞き、カンファレンスを行い、ケアマネジャー、計画作成担当、看護婦、各スタッフと話し合い、計画の作成をしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに対し、1ヶ月間の評価をしています。変化が生じた場合や、見直しが必要な場合には、関係者と話し合いをし、新しいプランを作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の言葉など、細かく詳しくケースに記録するようにしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診など、ご家族様が付き添えない場合には、スタッフが代わりに同行したりと、柔軟に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防・警察の方々には、どのようなホームであるか、理解していただき、ホームの周辺の見回りや、避難訓練など、協力をしていただいています。ボランティアの受け入れや、民生委員の方と協力し、支援していています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も、担当のケアマネジャーとの連携をとり、ご本人様の必要とするサービスの支援をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターに足を運び、相談・情報の交換・情報の共有に努めています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけ医に受診しています。また、ご家族様が受診に同行出来ない場合には、スタッフの同行にて受診を行っています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当事業所の代表が、認知症の専門医ですので、スタッフも安心して相談しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、訪問看護ステーションに来ていただいています。状態変化や、対応など、気軽に相談でき、連携がとれています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要な情報を提供し、病院関係者と連携をとっています。スタッフの顔を見る事で安心される方もいらっしゃるので、ご家族様に了解を得て、お見舞いに行かさせていただいています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合の対応に係る指針をお渡しし、説明しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者様の状態の変化に伴い、ご家族には事業所の出来る事、出来ないことをお話し、ドクターや看護婦等と話し合い支援しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最小限のダメージですむように、ご家族様や、関係者の方々と連携し情報交換、話し合いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルを作成し、プライバシーの確保に努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人様が自己決定しやすい声掛け、希望えお言いやすい環境を心掛けています。その方に合った声掛けなどの工夫をしています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内でのおおよその1日の流れはありますが、ご利用者様中心の生活ですので、その方のペースにあわせ支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時に整容していただき、着るものなど、ご本人に選んでいただいています。2ヶ月に1回、訪問美容がきてくれます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様が出来る事、また、得意とする事をお手伝いしていただいています。一緒に作ったものを、スタッフも同じテーブルに座り、会話を楽しみながら食べています。スタッフは、食べこぼしを考え、サポート出来る位置に座るようにしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は出していませんが、飲み物を数種類用意したり、おやつなどは、好きなものを作ったり、一緒に買い物に行き選んでいただいています。タバコの管理はこちらでしていますが、好きな時間に楽しめるようにしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライドを傷付けないよう、声掛け・誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ、入浴支援を行っています。入浴前に声掛けし、希望の時間等聞くなどし、できる限りご本人様の希望に沿うよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様個人個人の生活リズムを把握し安心して休息できる様支援しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事・洗濯・掃除・園芸など、その方にあった、家庭的な活動を支援しています。ご本人様の得意とする事や、趣味など、活躍出来る場を見つけ、日々過ごせるようにしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針として、ご利用者様自身での金銭管理は行っていません。希望の品物があつた場合には、ご家族様の了解のもと、ホームで立て替え、月まとめて請求しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出掛けたり、天気の良い日には散歩に出掛けるなど支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行つてみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会時や手紙などで、ご家族様と連絡を取り合い、お正月やお盆の里帰りなどの機会を作つています。また、ご利用者様の希望を聞き、外出行事計画を作つています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や、お手紙など自由にしていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けていないので、いつでも来訪していただけるよう、お声をかけています。面会時には、話しやすい場所で、ユックリと過ごしていただいています。	○	ご家族様の面会が少なく感じる為、ホーム行事を平日でなく、土・日にするなど、日程の調整を行っていった。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ参加したり、苑内研修などで勉強会を開催しています。また、見やすい場所に、「身体拘束のない介護のための指針」を張り出しスタッフが、常に意識できるようにしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ同士で常に状態把握に努め、徘徊されている方がいる時などには、注意して見守るようにし、ご本人様がストレスを感じないよう取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時には必ずノックをし、プライバシーの確保に努めています。また、ご利用者様の状態を把握し、スタッフ間で連携をとり、安全確保につとめています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状態に合わせ、ご本人様で管理できる物、できない物を見極めて対応しています。危険な物を使用する際には、スタッフが見守りながら使用していただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや、事故報告書からその後の会議にて話し合い、対応方法など検討し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し、各ユニットに置いてあります。また、苑内研修にて、看護師より応急手当の仕方など、勉強会を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害対策として避難訓練を実施しています。消防署の方にもきていただき、指導を受けています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様には、今後起こりえるリスクについて説明し、ご理解をいただいています。問題が生じた場合には、ご家族様と相談・協力し、その方らしい生活ができるよう努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや、日々のコミュニケーションを多くとることで、素早く異変に気付けるようにしています。異変に気付いた時には、Dr.・看護婦にすぐに連絡し、指示を受け対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が飲まれている薬のファイルを作り、スタッフがいつでも確認できる様、各ユニットに置いてあります。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動をしたり、食物繊維の多い食べ物を取れるよう配慮しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、援助を行っています。磨き残しがないかチェックし、状態に応じて支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックシートの中で、一人一人の摂取状況の把握をしています。水分摂取の確保では、個人個人の必要水分量を出し、チェックしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対応マニュアルや、勉強会、研修の機会の確保等行っています。調理前や、食事前、外出後などには、うがい・手洗いを徹底して実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板等、調理器具は使用后、食器消毒保管庫にて消毒・保管しています。食材には、常に新鮮な物を使用しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に季節の花を植えたりし、家庭的な雰囲気づくりに努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな声や、物音を立てないよう心掛け、光の調節には、レースのカーテンを使用するなど、配慮しています。フロアやキッチンなどには、家庭で使っている物を使用しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺にソファ・テーブルを置いたり、畳にはコタツを設置し、個々にくつろげる空間づくりをしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご自宅で使用されていた家具・食器類等を持ってきていただくようお話しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気など設備を整えています。午前・午後と室内の換気を行い、温度調整には十分注意しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等、手すりを設置し安全に歩行できるようになっています。また、ご利用様が使用するもの(洗濯竿)など、身長の高さに合わせるなどの工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋には、ご利用様の目の高さにネームプレートを、トイレやお風呂場などのプレートは、大きく見やすい場所に取り付けています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキや、ベランダにプランターを置き、季節の花や、野菜の栽培を行っています。ご利用様が、楽しく生活できる空間づくりをしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)